

将来を描くためのフレームワーク

経営デザインシートの活用

社会・経済環境は、モノの供給が中心の時代から、体験や共感といった多様な価値が重視される時代へと変化しています。こうした中で、企業の成長を支える要素として、知財の重要性が高まっています。企業は、これまでの価値を生み出す仕組みを把握し、今後、顧客が必要としていることや求めていることに訴求できる価値を生み出す仕組みを構想する必要があります。すなわち、「経営をデザインする」ことが重要になってきています。

■ 経営デザインシートとは

経営デザインシートは、企業等が将来に向けて持続的に成長するために、将来の経営の基幹となる価値創造メカニズム(資源を組み合わせる企業理念に適合する価値を創造する一連の仕組み)をデザインし、在りたい姿に移行することを目的としたシートです。このシートは、内閣府が提供しています。

■ 経営デザインシート作成の流れ

経営デザインシートには、主に以下の3種類のひな型があります。

- (1) 企業全体の将来構想を描く「全社シート」
- (2) 特定の事業を対象とする「事業シート」
- (3) 単一事業の企業向けの「事業が一つの企業用シート」

なお、内閣府の公表資料では、従来のひな型に加え、構成を整理した「新デザインシート」も掲示されています。いずれも基本的な考え方は共通しており、用途や整理のしやすさに応じて選択することができます。

(以下図は、(3)「事業が一つの企業用シート」です)

経営デザインシート(事業が1つの企業用)



経営デザインシートは、(A)～(D)の4つのステップで整理していきますが、順番どおりに進める必要はありません。書けるところから始め、必要に応じて見直ししながら整理していきます。

(A)企業理念/事業コンセプト

→自社や事業の存在意義を意識する

(B)これまでの価値創造メカニズム

→「これまで」を把握する

(C)これからの価値創造メカニズム ※重要

→長期的な視点で「これから」の在りたい姿を構想する

(D)これまでからこれからへ移行の戦略

→在りたい姿に向けて、今から何をすべきか戦略を策定する



作成にあたってのポイントとして、これまでの延長線上で考えるのではなく、将来から逆算して検討することが挙げられます。とくに(C)これからの価値創造メカニズムの部分では、「価値」→「ビジネスモデル」→「資源」の順で考えることを意識しましょう。

■ 経営デザインシートの活用場面

経営デザインシートは、企業経営における対話のためのツールとしても用いられることがあります。経営層と従業員が共同で作成することで、経営課題の整理やビジネスモデルの見直しにつながるほか、外部への共有を通じた連携の促進にも活用されるケースがみられます。また、事業承継の場面においては、現経営者と後継者がそれぞれ「これまで」「これから」を整理することで、移行戦略の検討や承継の必要性の認識につながる場合があります。

内閣府・知的財産戦略推進事務局のホームページでは、経営デザインシートのひな型や解説資料、活用事例などが公開されています。

詳細な情報につきましては、以下のホームページをご確認ください。

https://www.cas.go.jp/jp/seisakukaigi/titeki2/keiei_design/index.html

